

復習：景氣變動

時間的視野

- **長期:**
価格は**伸縮的**であり、需要・供給の変化に反応する
- **短期:**
諸価格の多くは何らかの既定水準から動かず、**硬直的**である

短期と長期では価格の動きが異なるため、経済政策も対象期間の長さによって異なる。

古典派マクロ経済学理論では

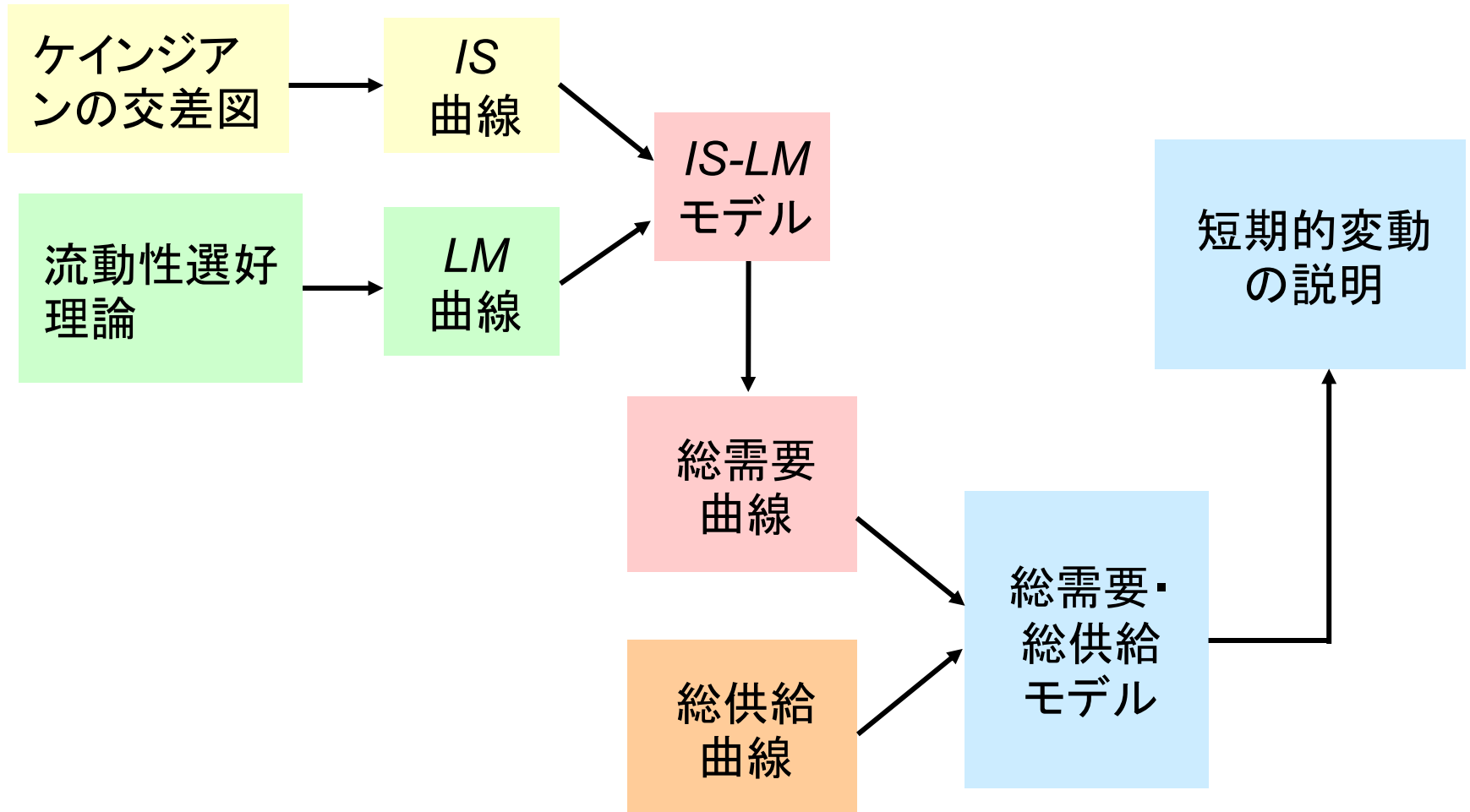
- 生産量は供給サイドによって決定される:
 - ◆ 資本、労働の供給
 - ◆ 技術水準
- $$Y = F(K, L)$$
- 財・サービスの需要(C, I, G)が変化しても実質変数(生産量)は変化しないが、名目変数(物価水準)だけに影響する(「総供給」と「総需要」)。
 - 「価格は完全に伸縮的である」といことが重要な仮定
 - 古典派理論は長期に当てはまる理論

短期：価格が硬直的な場合....

...生産量と雇用水準は財・サービスの需要に依存し、以下の要因に影響される：

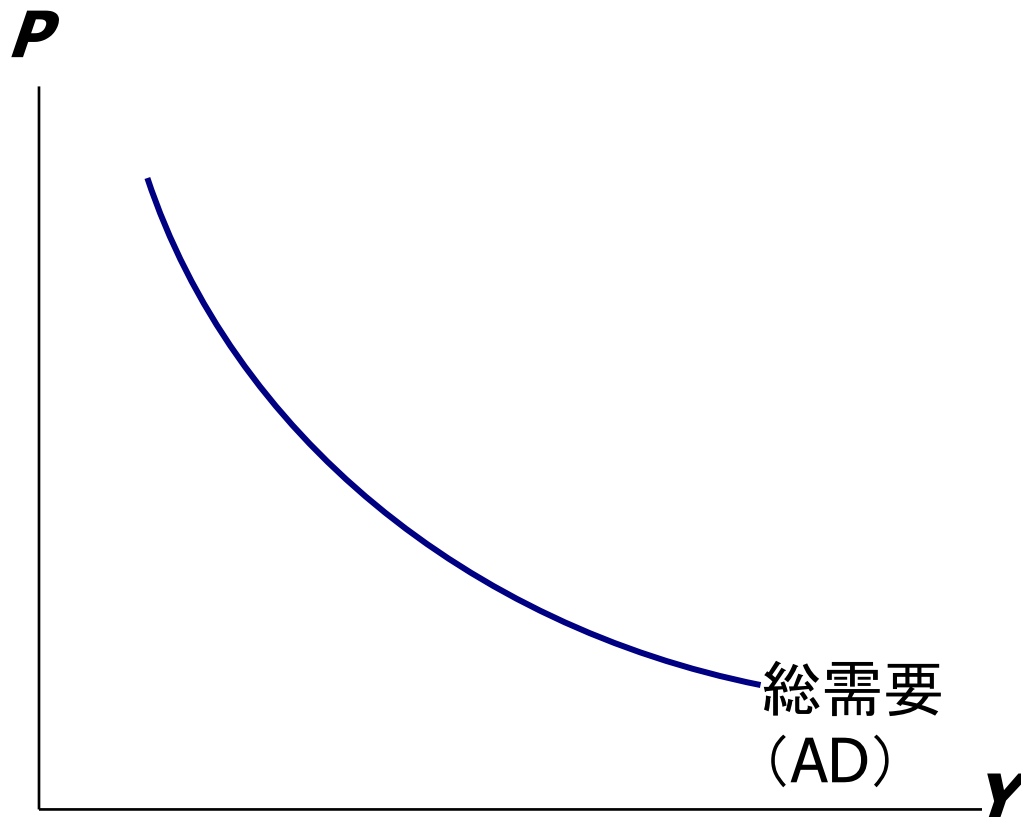
- 財政政策 (G と T)
- 金融政策 (M)
- その他の変数 (C や I)

短期的変動の理論



右下がりの総需要(AD)曲線

右下がりになる理由は
Part 1を参照



長期での総供給

- 復習:

長期的には、生産量は生産要素の供給と技術水準によって決定される

$$\bar{Y} = F(\bar{K}, \bar{L})$$

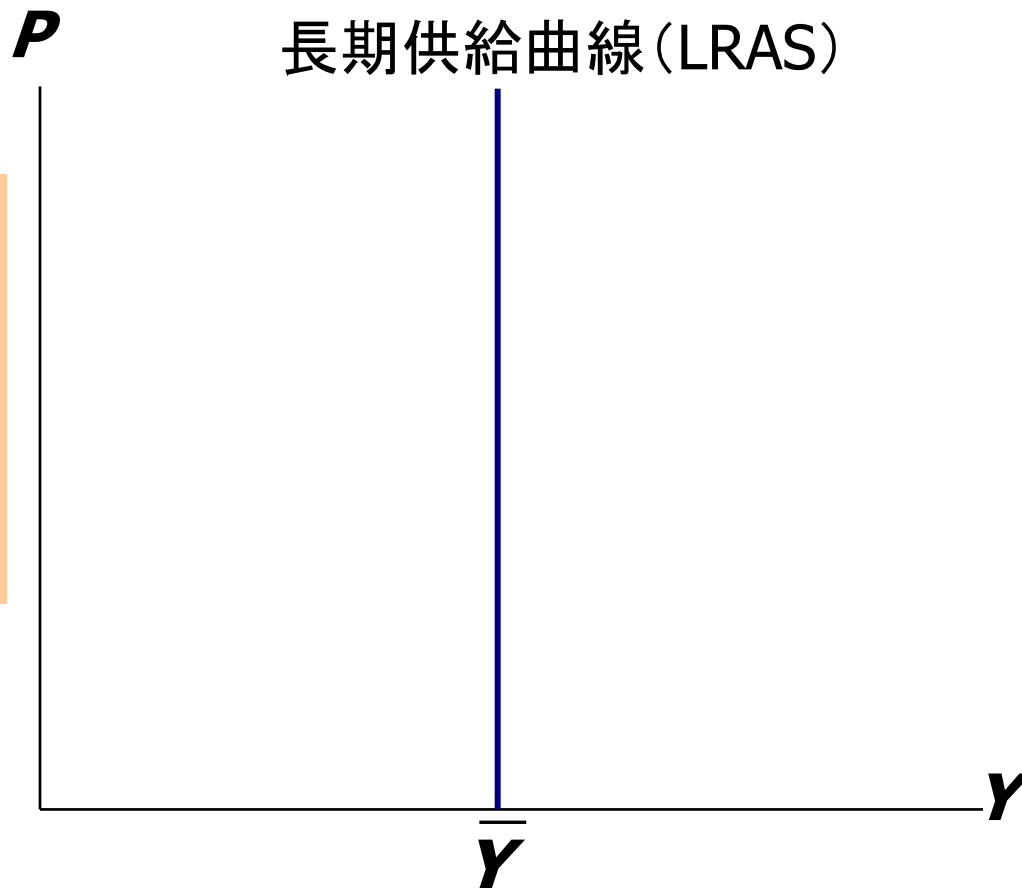
- 完全雇用生産量は、物価水準から独立（依存していない）

→ **長期供給曲線** (LRAS) は**垂直**

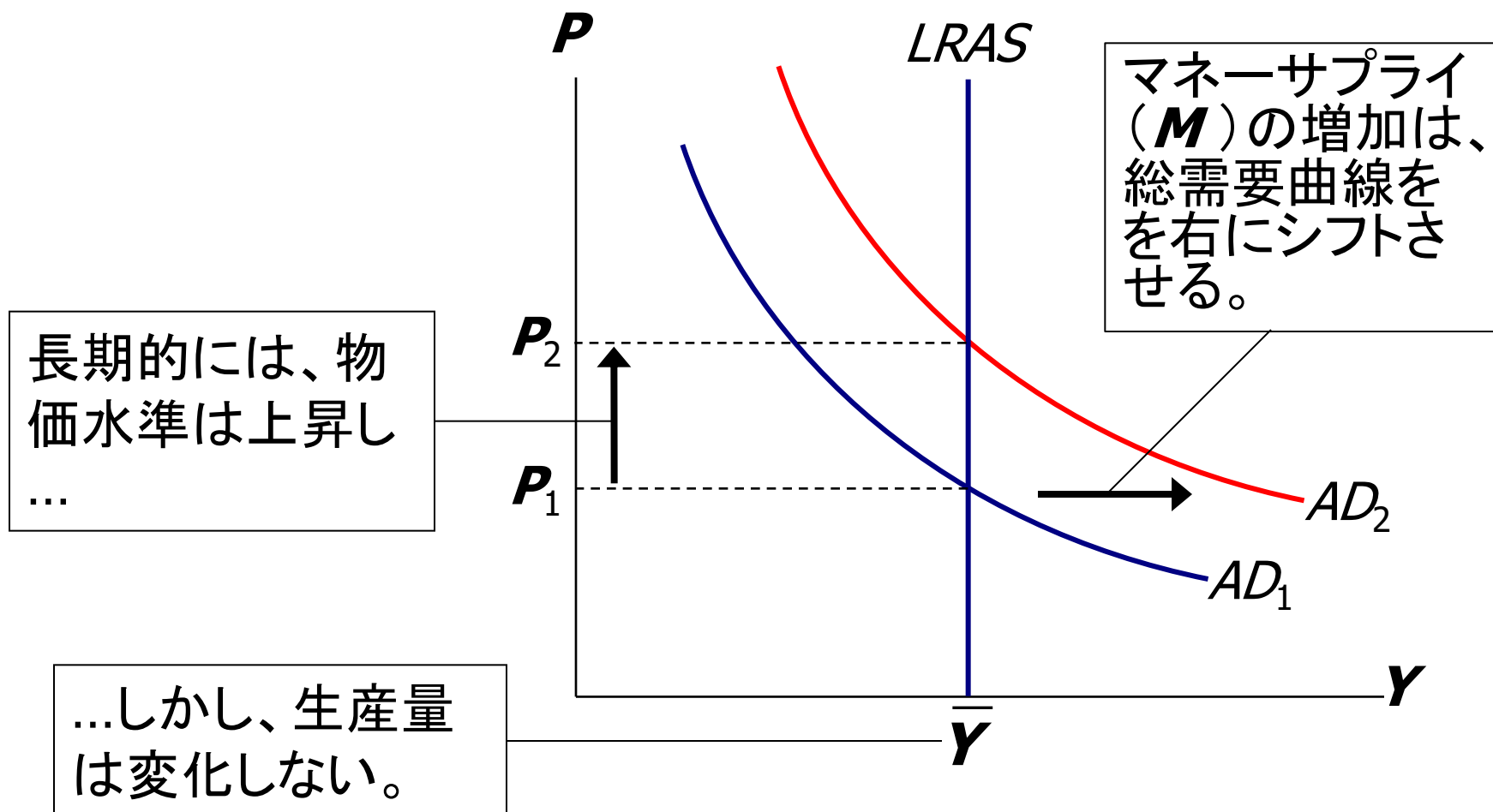
- LRSA = Long Run Aggregate Supply

長期供給曲線 (LRAS)

長期供給曲線
(LRAS)は、
完全雇用生産
量で垂直



金融政策の長期的効果



短期での総供給

- **短期**においては、現実経済では多くの財・サービスの価格は硬直的のようである。
- 仮定：
 - ◆ 短期において、全ての価格が既定の水準で**固定**される
 - ◆ 企業は、**顧客が購入したいだけの量を供給する**
- 即ち、**短期供給曲線** (SRAS) は**水平**
- SRAS = Short Run Aggregate Supply

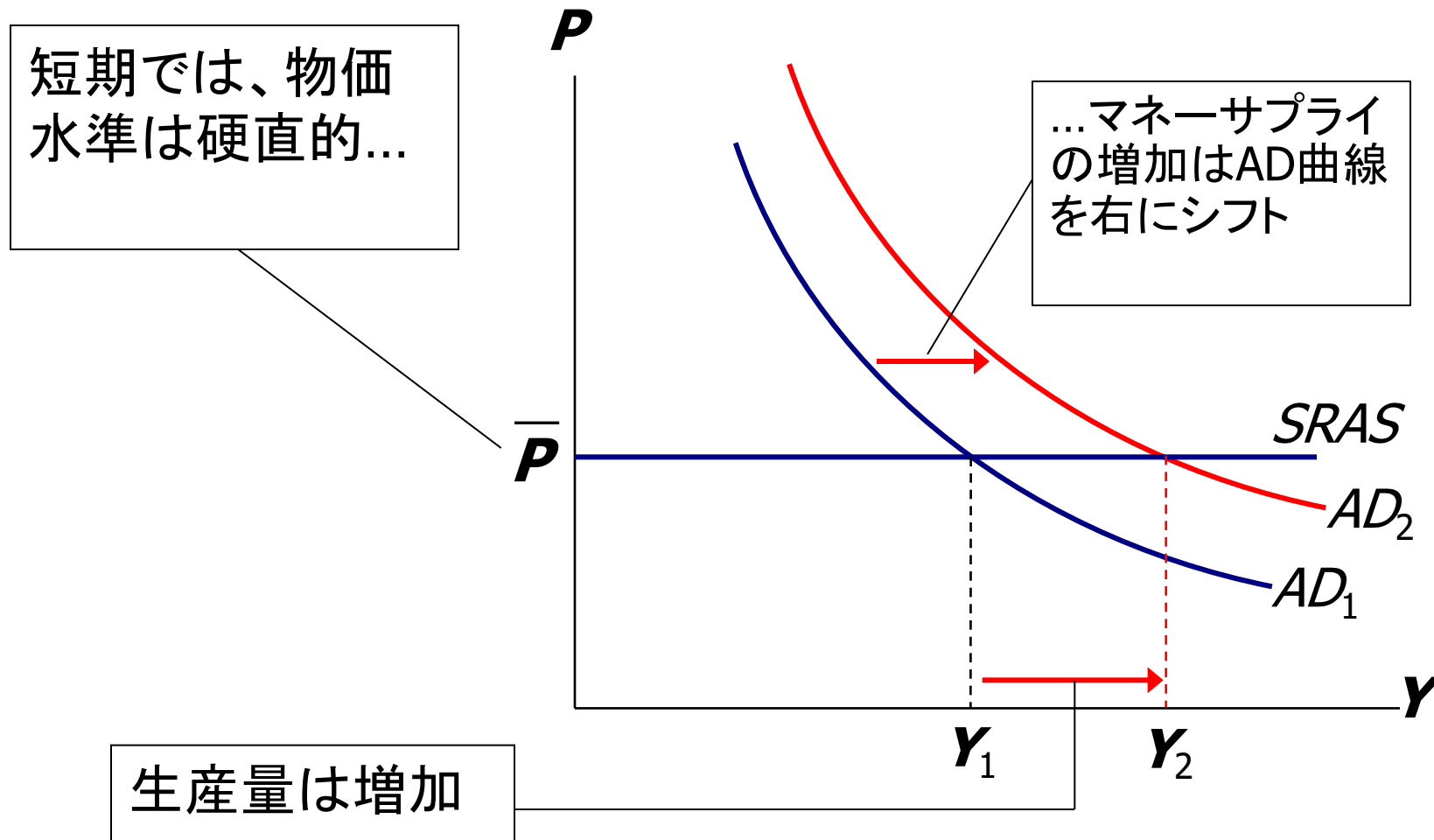
短期供給曲線 (SRAS)

SRASは水平:

物価水準は既定のレベルで固定され、企業は顧客が購入したいだけの量を供給する。



金融政策の短期的効果

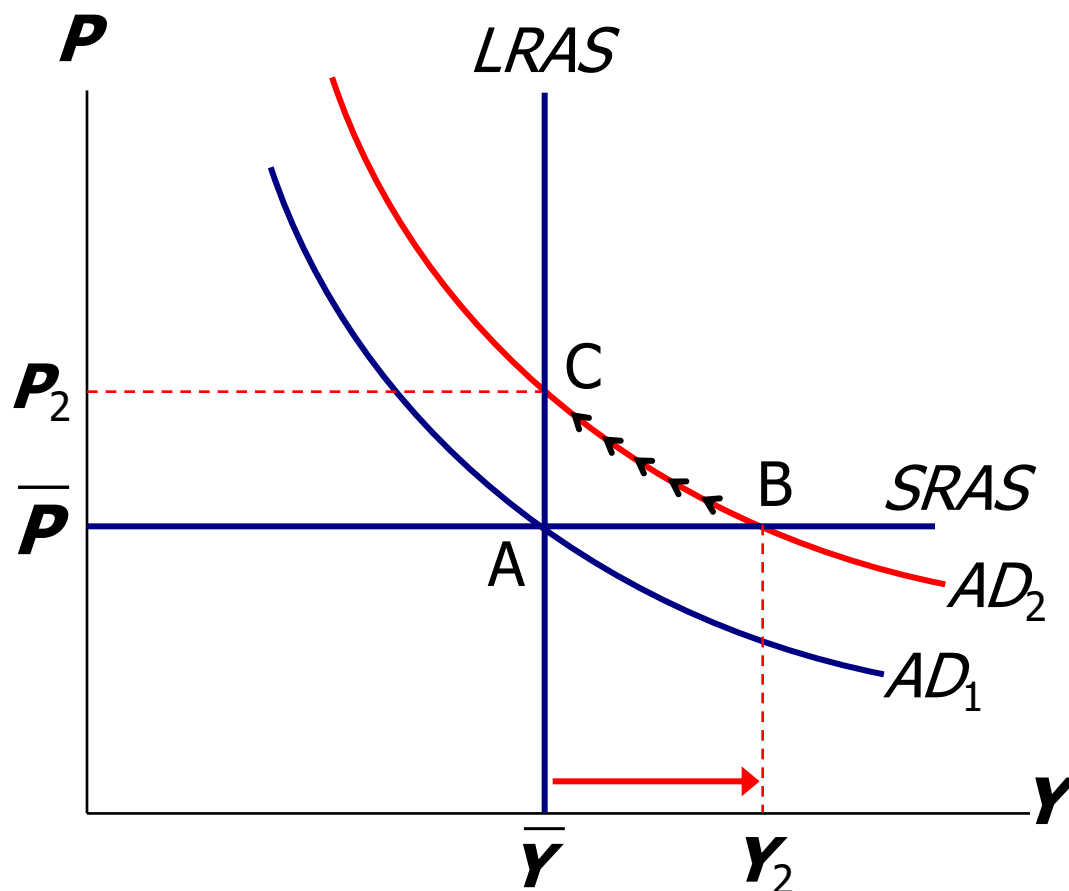


$\Delta M > 0$ の短期的・長期的効果

A = 初期時点
での均衡

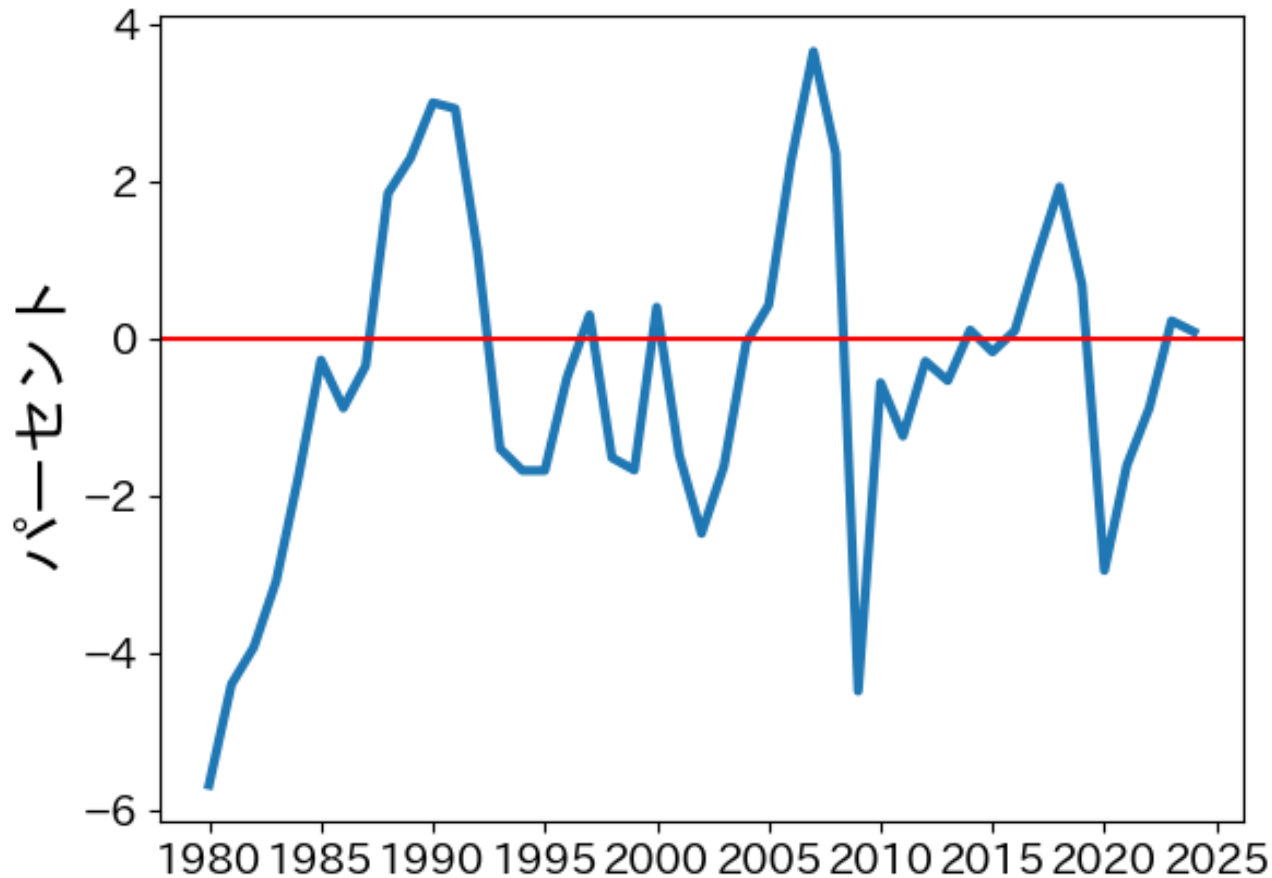
B = マネーサプライ
増加後の
短期均衡

C = 長期均衡



需給ギャップ(日本)

$$\text{需給ギャップ(GDPギャップ)} = \frac{Y - \bar{Y}}{Y}$$



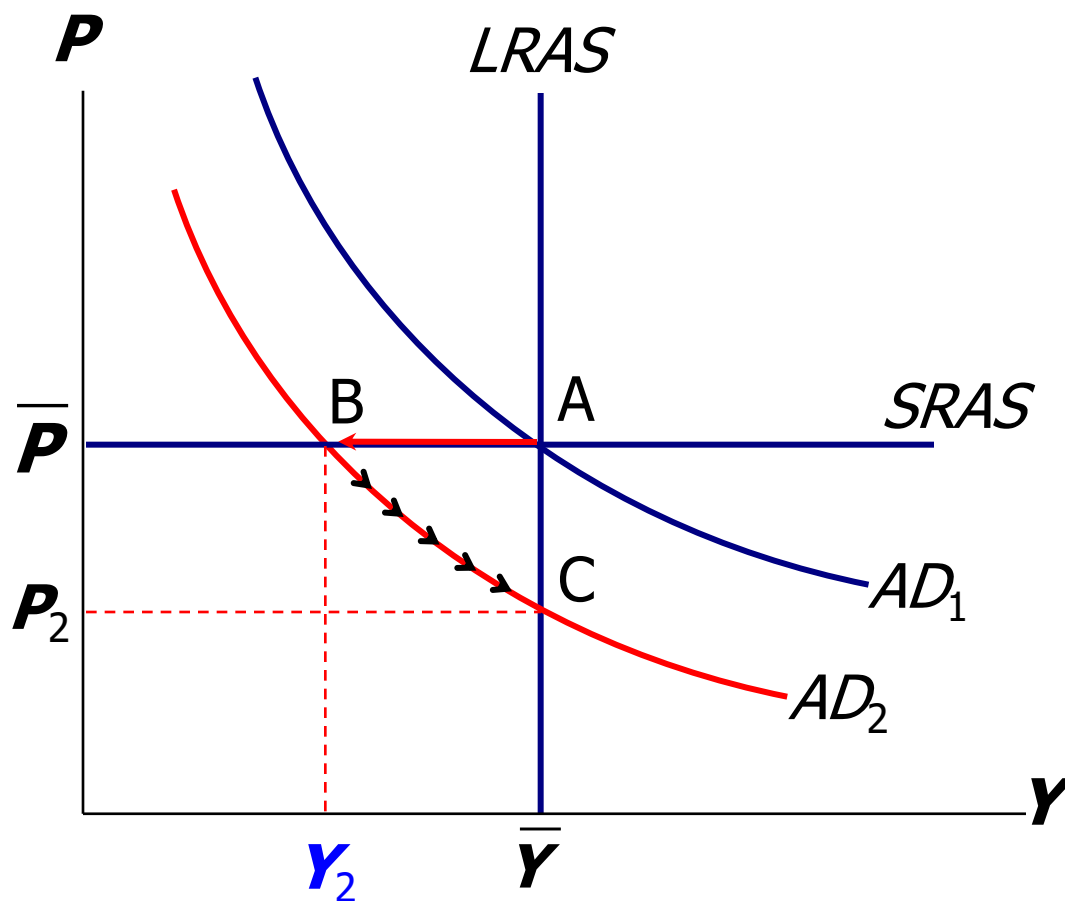
ショック

- **ショック:**
総供給、又は、総需要の**外生的要因による変化**
- ショックにより、一時的に経済は完全雇用水準から乖離する ⇒ **景気循環**
- 需要ショックの例: コロナショック
 - ◆ 全ての **P** で、 **Y** (総需要)は減少
 - ◆ AD曲線が左にシフト

総需要に対する負のショックの効果

ショックによりAD曲線は左にシフト。短期的には生産量と雇用量は減少する。
(A → B)

時間と共に、物価水準は減少し、経済はAD₂に沿って自然率(完全雇用)水準へ移行する。
(B → C)



総供給へのショック

供給ショック は生産費用を変化させ、企業の製品価格も変更させる。

(**価格ショック**とも呼ばれる)

不利な供給ショックの例:

- 震災や干ばつにより、食糧供給の減少は食品価格を引き上げる。
- 労働組合がより戦闘的になり、賃金上昇。
- 新たな環境法案により、汚染物排出量の削減。それによって生じる追加的費用により製品価格の値上げ

(有利なショックは、生産費用・価格を減少させる)

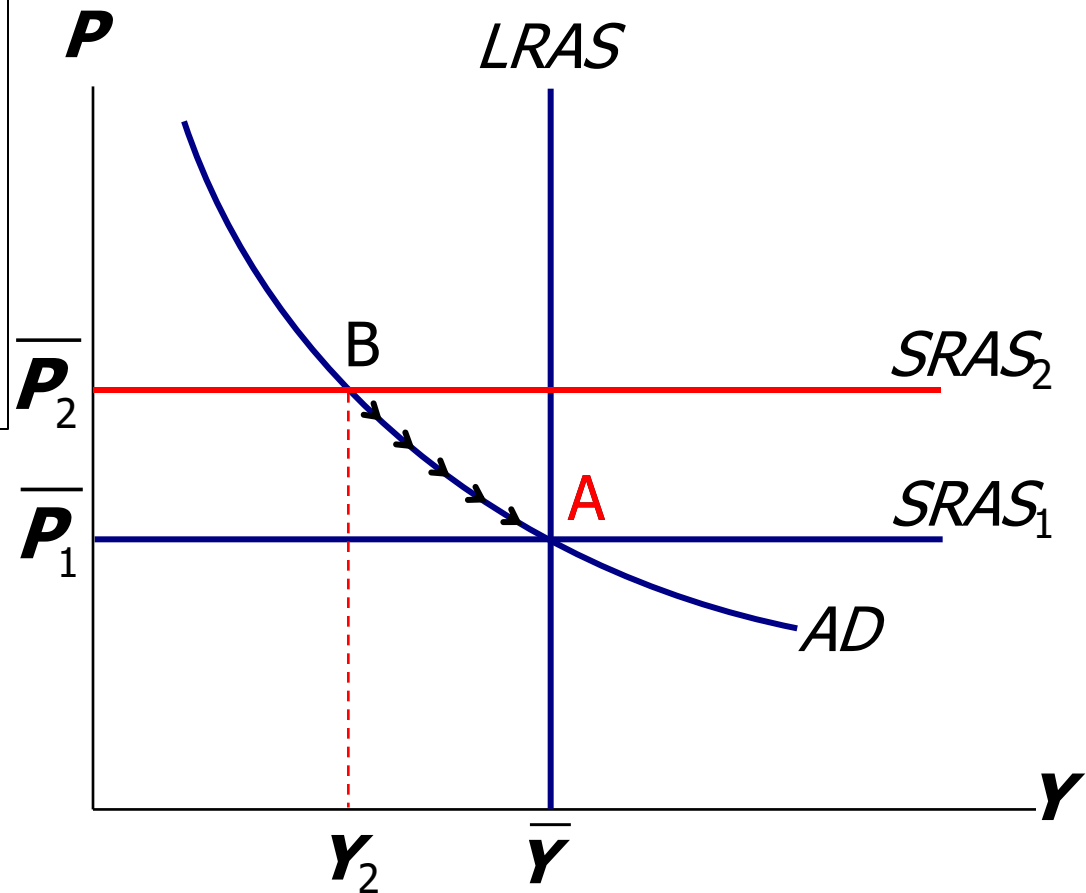
ケース・スタディ: 1970年代のオイル・ショック

オイル・ショックにより
短期供給曲線は上
方シフトし、生産量と
雇用を減少させた。

(A → B)

その後、時間と共
に物価水準が減少
し、生産量は経済
は自然率(完全雇
用)水準へ移行。

(B → A)



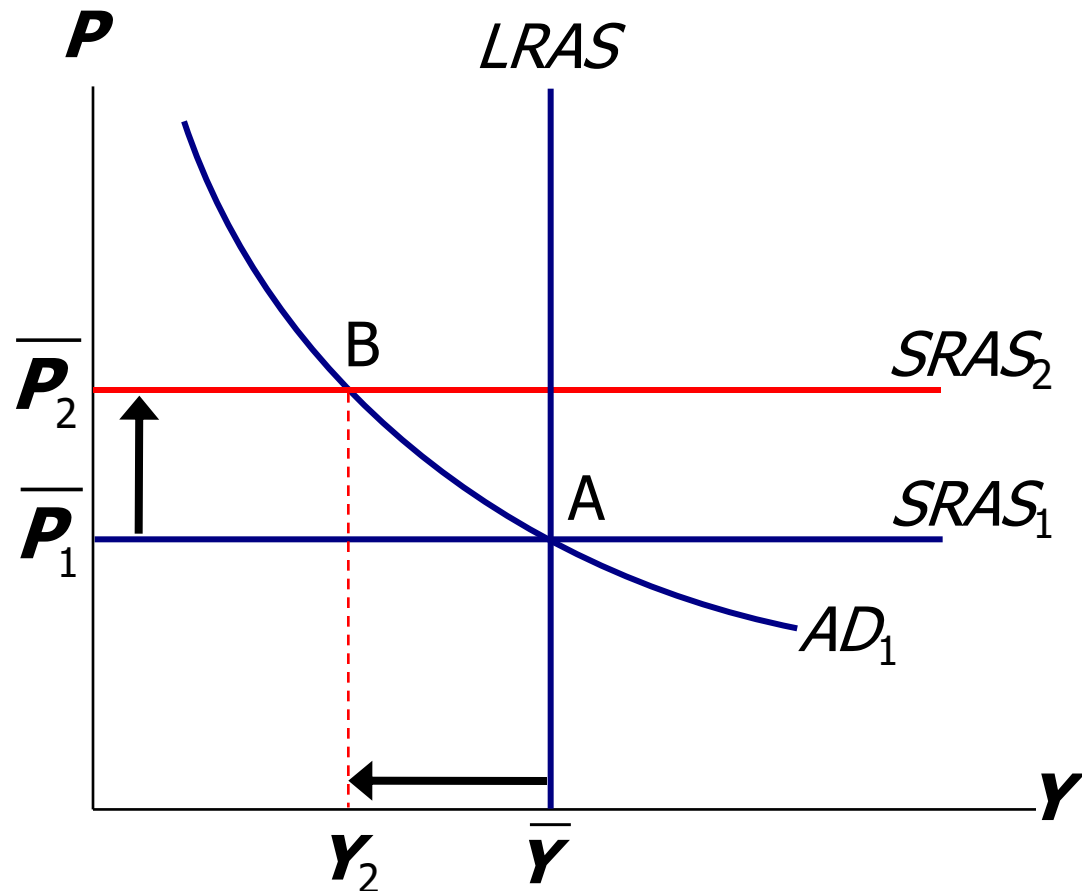
安定化政策

- 定義：
短期的な経済変動を緩和する目的を持った
政策行動
- 例：
不利な供給ショックに対処するために
(1) 金融緩和政策
(2) 拡張的財政政策

安定化政策としての金融政策

不利な供給
ショックにより、
経済はAからB

スタグネーション
(産出量減少)
+
インフレーション
(物価水準上昇)
=
スタグフレーション



安定化政策としての金融政策

しかし、日本銀行は
マネーサプライを増
加し、ショックの効果
を減少させる。

結果：
 P は上昇するが、
 Y は完全雇用（自然
率）水準に留まる。

